

東郷町の地域課題全体まとめ

1 多職種カンファレンスから抽出された地域課題まとめ

(1) 低栄養・脱水（栄養コントロール含む）

ア 既存の栄養指導はアクセスしやすいか。

- ・男性のための料理教室、低栄養予防教室などの事業はあるが周知が不足しているため、知らない人も多い。
- ・要支援・要介護状態の方が栄養指導を受けるシステム（やまびこ栄養ケアステーション、居宅療養管理指導）はあるが、アクセス方法についての周知が必要。

イ 新たに必要と考えられるサービスはあるか。

- ・事業対象者や一般高齢者が栄養指導を受けるシステムの構築が必要。
- ・高齢男性は調理技術が低い方が多いため、男性のための料理教室などの開催が必要。
- ・配食サービス以外に簡単な栄養指導を受けやすいシステムが必要。
- ・対象者の実生活に合わせた一律でない栄養指導が受けられるシステムが必要。
- ・要介護状態の方は、環境によって料理ができる人できない人、栄養指導をしても沿ったことができない人が多いと思うため、これを食べていれば大丈夫といった、簡単な指導が必要だと思う。

ウ ケースの栄養状態の経過をみていくシステムはあるか。

- ・現在は見た目で判断しているが、低栄養かどうかの見極めが難しい。
- ・体重の増減が分かったときには、栄養士につなぐよりも医療の受診を勧めている。

エ 栄養コントロールが出来ていない方をどのように把握するか。

- ・医療と介護の両方を受けていない方に対しては、栄養パトロールで把握し、最初の段階のアプローチをかける事が出来ている。
- ・サービスを受ける方の身近にいるヘルパーや訪問看護師の意見をケアマネが吸い上げるシステムが必要。

オ 栄養コントロールが出来ていない方を把握した後にどのようにフォローするのか。

- ・データを見ただけで栄養指導といってもなかなか現実的に聞いてくれない。
- ・予防の意識がない方や自分はどこも悪くないと思っている方に対するアプローチ方法が課題。
- ・1番身近な訪問看護師の意見を吸い上げて、そこからコントロールに結び付けるとよいと思う。

(2) リハビリ体制の構築

ア 既存のリハビリ指導はアクセスしやすいか。

- ・介護保険の認定を受けている方はケアマネを通じてデイケアや運動型のデイサービス、訪問リハビリの紹介を受けることができる。
- ・骨折、ケガをした方などは、整形外科でもリハビリは受けられる。
- ・なんとなく体力が落ちてきて、リハビリを受けたい、もっと活動的になりたいという人は、専門職は把握しておらず、サロン、町の介護予防教室の参加が必要になってくると思う。

イ 新たに必要と考えられるサービスはあるか。

- ・リハビリの必要性を専門職に見てもらえる仕組み。
- ・運動を継続するのは個人では困難なため、みんなと一緒に運動できる場が重要（送迎付きや歩いて行ける家の近くの公民館など）
- ・自宅の中で転倒する事故も多いため、自宅に訪問する専門のリハビリの先生がいると良いと思う。
- ・医師の指示書の必要がないハードルの低いサービスがあると良い。

ウ ケースの身体状況の経過を見ていくシステムはあるか。

- ・介護保険の中で各事業所のモニタリングなどで状態を把握する仕組みはあり、そこで適切な機関を紹介していく仕組みはある。

エ フレイル・フレイル予備軍の方をどのように把握するか。

- ・ケアマネは、地域の方からの情報や、実際に訪問しての状況、関連している訪問看護、ドクター、薬剤師など医療関係者からの情報や、ヘルパーからの情報などから把握している。

オ フレイル・フレイル予備軍の方を把握した後にどのようにフォローするのか。

- ・地域のお互いさま、隣の人と仲よくしようという気持ちがつながり、行政の支援が入り、その人が助かっていくなれば、昔の井戸端会議も意義のあることだと思う。
- ・リハビリ後の評価を適切に行い、定着するまで見守るような仕組みが必要。

(3) 気軽に集える場の不足・居場所づくりの必要性

「見守り機能がある喫茶店」、「手芸ができるサロン」、「送迎があるサロン」、「地元の方でなくても参加しやすいサロン」等が必要という意見があった。担い手の確保も含めて実現する方法について。

- ・サロンを立ち上げたい地区があれば積極的に支援していく事が大切。
- ・集まる場所があることが見守り見守られる関係性の構築に繋がっている。
- ・担い手、お世話役の確保をできるようなネットワークの構築が必要。
- ・送迎があるサロンがあると良い。

(4) 住民等による組織的な支援体制の不足

「認知症の方の散歩に付き添ってくれる住民の方がいると良い」、「認知症の方をお茶に誘ってくれる住民がいると良い」、「地元の人でなくても老人クラブに気軽に参加できるような雰囲気欲しい」という意見があった。民生委員や地域サポーターだけでは賄いきれない互助の部分住民でフォローする方法について。

- ・支援をしたい方と支援が必要な方は両方いるが、そのマッチングに労力がかかる。
- ・地区社協などが実際に活動をできる仕組みづくり。

(5) 高齢者世帯（老老介護・認認介護）

高齢者世帯が抱える課題として「介護者の負担が大きい」「他者の目が入りにくいことによる介護方法の偏り」があった。介護者の負担軽減、虐待防止について。

- ・介護力の低い家族との同居と同様の課題がある。
- ・日中独居の方は独居向けのサービスが受けられない。

2 地域ケア個別会議から抽出された地域課題まとめ

(1) 認知症高齢者の見守り体制

ア 民生委員での見守りだけでは対応が困難なケースはあるか。

- ・家族や親族との関係性が壊れてしまっている事例は困難な場合が多い。
- ・困難ケースについては地域ケア個別会議に民生委員も参加し、関係者皆で話し合えるようにすると良いのではないかと。

イ 住民による見守りを進めるためにはどうしたら良いか。

- ・地区社協、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の取組みを進める。
- ・災害時個別支援計画の作成に住民を巻き込み、住民による見守りを進める。
- ・地域とのつながりが無い人をサロン等に誘い出したいが、上手くいかない。
- ・自治会の加入率を上げることが必要だが困難。

(2) 独居高齢者の見守り体制

独居自体が地域課題ではなく、独居と認知症、独居と知的障がい者が重なる部分に課題がみられた。「身寄りがない方には後見人をつける」「食事、入浴の機会確保のためにデイサービスの利用を増やす」「入所を検討する」「民生委員や住民による見守り」「家族への状況説明（家族による支援の強化）」という関りが見られた。これらの関りで十分か。他にどのような支援が必要か。

- ・現在はケアマネがボランティアで高齢者の生活を支えている部分がある。
- ・地域の民生委員や家族とサービス事業所の専門職が繋がることで高齢者が抱える問題や、問題の解決策が見つかることもある。
- ・「私の在宅サービスチームカード」という高齢者を支える専門職や民生委員等が「意識的につながろうとする」ツールを新たに作るのはいかがでしょうか。
- ・地域ケア個別会議を開催し、関係者間の情報共有を進める。
- ・自治会、老人会に興味がない人についてもおせっかいを焼くことで一人ずつつなげていく。

(3) 介護力の低い家族との同居、8050 問題

ア 障がい者支援部門との連携はできているか。

- ・連携できている。8050 が疑われる場合は、柏葉（地域活動支援センター）かローゼル（障がい者相談支援センター）と連絡を取って一緒に訪問をしている。包括は障がい者の事例検討会に参加して一緒に勉強もしている。

イ 障がい者の事例と一緒に支援する際に課題はあるか。

- ・これまでできていたことが徐々にできなくなっていく高齢者への支援とは異なり、障がい者への支援は生活全般に対しての支援を同時並行で進めなければいけないことが課題。
- ・障がい者の支援を行う上では相談支援センター以外の機関との連携が必要だが、そのスピード感に高齢者もついていけないことが課題。

- ウ 8050 問題を抱える世帯で 50 の方にいずれの部署、機関も関わっていない時の対応。
- ・ 専門職も引きこもりの方の相談先を知らない。
 - ・ いずれの部署、機関も関わっていないケースを一から関わっていくのは包括としても難しい。
 - ・ 8050 問題は一つの課や一つの機関だけで支援するのではなく、複数の機関で支援していく事が重要。
 - ・ 50 の方が頑張ろうと思っても、80 の親が本人の頑張りを抑えてしまう。
 - ・ 家族と信頼関係を築きながら支援することが必要。

- エ 介護力を高めるための働きかけ、介護負担軽減のための取組みはあるか。
- ・ 一時的な避難、介護者の負担軽減のために、すぐに使える障がい者のショートステイが少ない。

(4) 成年後見制度の利用、普及啓発

- ア 制度は住民にとってわかりやすいか。
- ・ とてもわかりにくい。

- イ 制度を住民に説明する際に課題はあるか。
- ・ 成年後見制度についての説明を包括の出前講座のメニューとしているが依頼がない。
 - ・ 本人も家族も成年後見というだけでお金を取られるのではないかと、管理されて自由にできないのではないかと思われて 1 回の説明では理解されない。
 - ・ 制度について理解してもらうことが難しく、説明をして理解を得ることに時間がかかっているうちに問題が大きくなっている。

- ウ 身元保証会社との棲み分けをどうしたらよいか。
- ・ 病院でソーシャルワーカーが実際に身元を保証する人がいない、親族がいないというときに転院先や入所先を探すのに困難がある。
 - ・ 身元保証人がいない方については施設に負担を押し付けるのではなく必要な要素を関係機関が互いに分担できるような仕組み(話し合い) をしていく必要がある。

(5) 生活困窮者への支援

- ア 家族による経済的搾取への対応で困難なケースはあるか。
- ・ 搾取されていると思われる本人だけの情報では実情がわからないことが多く、本人も隠すことが多い。
 - ・ 本人のキーパーソンが搾取している場合、キーパーソンとの信頼関係を損なう恐れがあるため、事実確認をすることが難しい。
 - ・ 本人の年金で世帯全体の生活(食費・光熱水費・家賃など本人も負担すべきもの)もまかなっている場合、どこまでが「経済的搾取」となるのかの線引きが難しい。
 - ・ 子供側に搾取の認識がない。親の金で生活するのが当たり前と思っている。親側にとられている感覚がない場合もある。

- イ 生活保護部門との連携はできているか。
- ・ 生活保護を受給している方に対しては生活保護部門の職員が同行訪問や担当者会議に参加している。
 - ・ 生活保護を申請する前の生活困窮者に対する相談の場合、時間がかかったり書類の作成を頼まれたりすることが多く、包括は時間と労力を使う。

- ウ 生活困窮者が入所できる体制は十分か。
- ・ 要介護 3 以上の場合、多床室の特養を希望するが、タイミングによっては待機期間が長くなる。
 - ・ 医療依存度が高い合、要介護 2 以下の場合などは、入所できる施設は有料老人ホームに限られている。
 - ・ 身元保証人がいない場合は施設入所を断られることがほとんどである。
 - ・ 生活保護や社会福祉法人減免を利用するなどして本人が入所できたとしても、残された家族の生活が立ちいかななくなることもある。
 - ・ 社会福祉法人では「生活困窮」であることを理由に入所を断ることはない。
 - ・ 社会福祉法人では、入所後も生活保護受給者を含め低所得の方に対しては月々の利用者負担額並びに食費・居住費を所得状況に応じて軽減するなど経済的なサポートができる。

- エ その他の支援にはどのようなものがあるか。
- ・ 東郷町くらし資金 低所得世帯のため不時の出費等によって暮らしの維持が困難な世帯 3 万円以内/月 利子なし、保証人必要なし
 - ・ 緊急小口資金 新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急かつ一時的に生計の維持が困難となった世帯 20 万円以内/月(据置期間 1 年以内) 利子なし、保証人必要なし
 - ・ 総合支援資金 新型コロナウイルス感染症の影響により、生活再建までの間に生活資金が必要な世帯 20 万円以内/月(据置期間 1 年以内) 利子なし 保証人必要なし

3 第9期東郷町高齢者福祉計画策定に向けて

上記1、2のまとめを踏まえて、今後東郷町が力を入れて取り組んでいくべき分野、取組みについて地域ケア推進会議で検討する。